

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【西牟婁振興局】

重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の導入推進による産地維持】

～摘心＋カットバック処理実証園の収量調査結果～

令和8年6月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

は じ め に

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-2
1. 重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】 ～簡易検定による育苗時の炭そ病発病状況の確認～	
2. だいこん優良品種試験の実施	
3. 田植え体験学習を実施	
4. 海南市立北野上小学校で「うめの出前授業」を実施	
II 那賀振興局	3
1. 重点プロジェクト【次代を担ういちご生産者の確保・育成】 ～紀の川アグリカレッジ修了及び開講式と講義の開催～	
2. 管内小学校で「うめの出前授業」を実施	
III 伊都振興局	4-5
1. 食育活動としてうめの出前授業を実施	
2. クビアカツヤカミキリの成虫捕殺・幼虫掘り取り研修会を実施	
3. 重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】 ～兼業農家を対象とした柿栽培技術講習会（第1回）の開催～	
IV 有田振興局	6-7
1. 有田農業技術者会総会及び研修会を開催	
2. 宮原小学校で和歌山県の果物についての授業を実施	
3. 田んぼの学校（糸我小学校）で田植え・アイガモ放鳥授業開催	
V 日高振興局	8-9
1. クビアカツヤカミキリ悉皆調査を実施	
2. 美浜町ジャンボタニシー斉駆除を実施	
3. 施設ピーマンにおける天敵利用の推進	
VI 西牟婁振興局	10-11
1. 重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の 導入推進による産地維持】 ～摘心＋カットバック処理実証園の収量調査結果～	
2. 重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の 導入推進による産地維持】 ～摘心＋カットバック処理実証園で夏季摘心処理を実施～	

Ⅶ 東牟婁振興局

12-13

1. 県産農産物(うめ)の提供に係る出前授業を実施
2. くろしおピーマングループが栽培出荷検討会を実施
3. クビアカツヤカミキリ発生状況調査を実施
4. 新宮周辺地場産青果物対策協議会が総会及び現地研修会を開催

Ⅷ 経営支援課

14

1. 近畿野菜技術研究会第120回研究会を開催
2. 普及指導員資格試験に向けた勉強会を実施

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】 ～簡易検定による育苗時の炭そ病発病状況の確認～

5月21日、県農業試験場にてイチゴ炭そ病の簡易検定を行った。

管内のいちご農家に希望を募り、親株・子株、また品種を問わず、検定を希望する株について3葉／株ずつ提出いただいたところ、7農家から35株分の葉、105枚が集まった。検定は次の通りの方法で実施した。まず、それぞれの葉を水道水で洗浄後、70%エタノールに30秒浸漬することで葉表面の殺菌処理を行った。次に、蒸留水で洗浄した後、処理葉を株ごとに、殺菌乾燥済みのシャーレに蒸留水で濡らしたろ紙とともに入れ、28度で約2週間培養し、葉への炭そ病菌感染の有無を確認した。



処理葉の検定

6月2日、目視にて確認した結果、いずれの処理葉にも炭そ病の発生は認められなかった。また、一部の処理葉については顕微鏡にて確認したが、やはり、胞子塊の形成など、炭そ病の発生は確認されなかった。管内いちご農家は、適切に育苗管理をしていることが分かった。

今後も、顕微鏡を用いた花芽の生育診断を行うなど、いちご農家への伴走支援を継続していく。

2. だいこん優良品種試験の実施

和歌山市布引地域は、和歌山県の農産物で初めてGI登録された「わかやま布引だいこん」の産地であり、秋冬期の収穫、出荷の他、春から初夏にかけても収穫され、京阪神市場等に出荷されている。農業水産振興課ではJAわかやま わかやま地域本部と連携し、より産地に適した新品種を導入するため、慣行品種との比較試験を実施している。

今年は3月に播種した3品種を6月5日に収穫し、葉の長さや根の重さ、糖度等を調査した。また、供試元の種苗メーカーも参加の上、現場で外観や食味についても評価した。

今後、生産者らと調査結果を協議し、有望と思われる品種については引き続き試験を実施していく。



調査の様子



評価の様子

3. 田植え体験学習を実施

農業水産振興課では、小学生等を対象に、農業や地元の農作物に興味を持ってもらうため、体験学習や出前授業に取り組んでいる。

6月18日、和歌山市梅原の貴志正幸氏の水田において、和歌山大学教育学部附属小学校の5年生（64名）を対象に、田植え体験学習を行った。

児童は、貴志氏から田植えの方法や、水田の中での歩き方について説明を受けた後、実際に田植えを体験した。

児童のほとんどは水田の中に入った経験がなく、裸足で歩くことを怖がる児童もいたが、体験後には「田んぼを歩くのが気持ちよかった」、「もっと田植えがしたい」といった声が上がった。

また、田植え体験後には、児童から貴志氏に「なぜ苗を植える間隔を開ける必要があるのか」、「一人で田植えを行うとどれくらい時間がかかるのか」など多くの質問があり、米作りについて理解を深めていた。

10月には稲刈り体験の実施を予定している。



田植えを体験する児童達

4. 海南市立北野上小学校で「うめの出前授業」を実施

6月17日、海南市立北野上小学校の5年生（13名）を対象に、うめの出前授業を実施した。この授業は、県産品果実の知識を深め、農業への理解促進と郷土愛や食に関する感謝の気持ちを醸成することを目的としている。

はじめに「うめのお話」では、農業水産振興課の岩橋普及指導員より県内のうめの生産状況、うめ作りの始まり、うめの品種、そして近年は雹の被害が発生し、うめの栽培が難しいこと等について講義を行った。講義後、生徒から「1本のうめの木から何個うめがとれるのか」等の質問があり活発な質疑応答が行われた。

講義後、加工体験として「うめジュースづくり体験」を行った。生徒たちは、実の水分を丁寧にとり、竹串を使ってヘタを取った後、表面に穴を開け、実と砂糖を交互にビンへ入れて完成させた。生徒からは、「うめジュースの出来上がりが楽しみ」、「みんなで出来上がったジュースを飲みたい」といった声が聞かれた。



うめのお話



うめジュース作り体験

Ⅱ 那賀振興局

1. 重点プロジェクト【次代を担ういちご生産者の確保・育成】

～紀の川アグリカレッジ修了及び開講式と講義の開催～

6月1日、紀の川市のイチゴ研修プログラム「紀の川アグリカレッジ」第3期生2名の修了式と第5期生4名の開講式が、紀の川市役所で開催された。

修了式では、岸本紀の川市長から激励の言葉とともに記念品が贈呈され、第3期生から、研修受入れ農家や関係者に対してお礼と「これからが本当のスタートなので頑張ります」との決意表明があった。続いて開講式では、第5期生による自己紹介と受入れ農家の紹介が行われた。その後、研修報告会が開催され、第3期生は研修成果報告、第4期生は研修状況報告、第5期生は自己PRと研修への意気込みをそれぞれ発表した。

また、6月19日と26日に、久保普及指導員が第5期生を対象にイチゴ栽培の基礎知識に関する講義を行った。研修生からは「炭そ病の症状の見分け方」や「育苗に使用する資材」について質問があった。



第3期生修了式



第5期生講義

2. 管内小学校で「うめの出前授業」を実施

6月9日と12日に、小学生が県産果実の知識を深め、農業への理解促進と郷土愛、食に対する感謝の気持ちを醸成することを目的に、紀の川市立丸栖小学校の4年生14名と紀の川市立長田小学校の2年生17名を対象に、うめの出前授業を実施した。

丸栖小学校では、果樹園芸課職員が児童代表にうめを贈呈し、小野寺普及指導員が県内の生産状況を説明した。続いて、JAわかやま紀の里地域本部梅部会長の味村修作氏が、うめの着果枝や様々なサイズの実を使って、うめ栽培の作業内容や苦労等を説明した。児童からは「どの作業が大変ですか」、「どんな気持ちで作っていますか」などの質問が上がった。授業後はうめジュースづくりを行った。長田小学校では、小野寺普及指導員による授業後、学校ボランティアが用意したうめの枝から実をもぎ取り、うめジュースづくりを行った。

児童からは「実はいいい匂いがする」「ジュースが出来あがるのが楽しみ」といった声が聞かれた。



摘果について説明する味村氏（丸栖小学校）



うめジュースづくり（長田小学校にて）

Ⅲ 伊都振興局

1. 食育活動としてうめの出前授業を実施

6月12日、農業水産振興課は橋本市立橋本小学校の5年生35名を対象にうめの出前授業を行った。この授業は、生徒らが県産果実の知識を深め、昨今のうめの不作や農作業の苦労を通じて食に対する感謝の気持ちや郷土愛を醸成することを目的としている。

はじめに、柏本副主査が、和歌山県のうめの生産量や品種、栽培の苦労等についてクイズを交えて説明を行った。

その後、うめジュースの作り方について説明し、生徒各自が水洗いし水分を拭き取ったうめを砂糖と交互に入れて瓶詰めした。作業終了後生徒からは、「実に穴をあけるのが楽しかった」、「うめジュースができるのが楽しみ」という声が上がった。



うめの出前授業



うめジュースづくり

2. クビアカツヤカミキリの成虫捕殺・幼虫掘り取り研修会を実施

6月17日、伊都地方農業振興協議会（会長：木村直也氏）は管内のもも、すもも、うめ等の生産農家17名を対象に、かつらぎ町のもも・すもも園において、クビアカツヤカミキリの成虫捕殺・幼虫掘り取り研修会を行った。

はじめに、浅井普及指導員より、県内のクビアカツヤカミキリの発生状況等について説明をした後、ハンマー等を用いた成虫捕殺の実習を行った。

その後、クビアカツヤカミキリのフラスの見つけ方や幼虫の掘り取り方法について説明し、参加者が各自で幼虫の掘り取りを行った。研修終了後、参加者から「これほど多くの成虫を見るのは初めて」、「自分の農地でも幼虫の掘り取りをやっていきたい」という声が上がった。



成虫捕殺の実習



幼虫掘り取りの実習

3. 重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】

～兼業農家を対象とした柿栽培技術講習会（第1回）の開催～

農業水産振興課では、多様な担い手を確保するため、意欲ある兼業農家の方への支援に取り組んでいる。その一環として、6月20日にかきの栽培技術講習会を開催し、管内の兼業農家12名が受講した。今回は、第1回目として、かき栽培の基礎および病虫害防除に関する講義並びにかきの摘果実習を行った。

はじめに、津田普及指導員が、かきの摘蕾・摘果の方法や生理落果対策などについて説明し、続いて、柏本副主査がかきの主要な病虫害防除について説明した。その後、九度山町の園地に移動し、園主の藤田氏から、どのような果実を摘果すれば良いかを実演を交えて説明していただいた後、受講者が実習を行った。

現地では、自身の園地においてどの程度果実を摘果しているかなどについて、受講者同士で意見交換が行われた。



座学の様子



現地研修の様子

Ⅳ 有田振興局

1. 有田農業技術者会総会及び研修会を開催

6月24日、有田農業技術者会（会長：大嶋幹生氏）が果樹試験場において、総会及び研修会を開催した。本会は、有田地方の農業の発展、地域振興に寄与することを目的として農業水産振興課、果樹試験場、和歌山県農業協同組合、農業共済組合中部支所、有田川土地改良区、近畿大学地域創生農業研究所、有田中央高校の農業関係機関（会員数61名）で構成されている。

総会では、令和7年度事業報告、会計報告、令和8年度事業計画案、予算案、新役員案が全て承認され、新会長に当課の千賀主査、副会長にJAわかやまの田代氏が選任された。

総会後の研修会では、鳥獣害対策をテーマに、当課の足立主査、果樹試験場の久山研究員、タイガー株式会社西日本営業部鶴田吉則部長に講演をいただいた。会員たちはイノシシやシカの対策だけでなく、近年全国的に被害が拡大しているクマ対策についても活発な意見交換を行った。



総会の様子



鶴田氏の講演

2. 宮原小学校で和歌山県の果物についての授業を実施

6月2日、農業水産振興課は、地元産業への理解を深めるため、有田市立宮原小学校の6年生45名を対象に総合的な学習の時間で「宮原町の農業について」をテーマに授業を行った。

授業では武内普及指導員と林普及指導員が、和歌山県はみかんやうめなど多くの果樹の生産量が日本一を誇ることや、果物に含まれる栄養成分等について説明した。また、宮原町内でも栽培されている県オリジナル品種のいちご「まりひめ」についても紹介した。

児童たちは後日、町内の「まりひめ」の園地を見学し、地元農業の理解を深めた。

児童からは「果物はたくさん栄養があり、体に良いと知ったので、毎日たくさん食べたいと思う」等の感想が聞かれた。



普及指導員による授業



イチゴほ場見学

3. 田んぼの学校（糸我小学校）で田植え・アイガモ放鳥授業開催

先月に引き続き、糸我地区青少年育成会が、第26回「田んぼの学校」（校長：山崎佳彦氏）を有田市立糸我小学校において実施した。

6月9日に5年生12名による苗取り作業、6月10日に全校児童48人による田植えが行われた。山崎佳彦氏から田植えの方法について説明を受けた後、児童らは横一列に並び、地元農家の掛け声に合わせて一斉に苗を植えていった。

また、6月16日には5年生が孵卵器で孵化させ、育てたアイガモのヒナ計23羽を田んぼに放つ放鳥を実施した。児童らは「田植えは泥だらけになりながらの作業で大変だった」、「アイガモが孵化してからエサやりなどのお世話が大変だったので、無事に田んぼに放つことができて良かった。大きく育ててほしい」等の声が聞かれた。



児童らによる田植え



水田への放鳥

V 日高振興局

1. クビアカツヤカミキリ悉皆調査を実施

日高地域では令和5年からクビアカツヤカミキリの被害が確認されており、令和8年3月末時点の累計では農地で719本、農地以外で138本の被害が確認されている。また、今年度に入ってから新たな被害が報告されているとともに、成虫の目撃情報も見られるようになっている。

そこで、農業水産振興課では、市町やJAわかやま紀州地域本部、うめ研究所などの関係機関と連携し、被害拡大防止対策を講じるため、6月9日（由良町）、16日（美浜町）、18日（日高川町）、23日（印南町）の計4回悉皆（しっかい）調査を実施した。うめ園や民家の庭木、街路樹の桜などを対象に、被害樹の発生箇所を中心として網羅的に調べた結果、被害は21本で確認され、成虫も発見された。クビアカツヤカミキリは、繁殖力が高く、被害が急速に拡大するため、引き続き調査を継続するとともに、早期発見・早期防除の徹底を啓発していく。



悉皆調査で発見された成虫

2. 美浜町ジャンボタニシ一斉駆除を実施

美浜町は水稻の栽培が盛んであるが、ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）による食害が問題となっている。そこで、6月21日、美浜町農業振興研究会（会長：田渕道人氏）による一斉駆除活動が行われた。当日は、地域の農業者に加え、美浜町役場、JAわかやま紀州地域本部及び日高振興局の関係者が参集し、協同で活動にあたった。

農業者は自身が保有するほ場周辺のジャンボタニシを捕獲し、町、JA及び県職員が水田を巡回して発生状況を確認した。

今年度は、発生が少なく、捕獲量はおおよそ20kgだった。会長は、「このまま大きな被害もなく、立派に育ってほしい」と話していた。捕獲したジャンボタニシは、町職員が焼却場に持ち込み、処分した。



農業者によるジャンボタニシ捕獲

3. 施設ピーマンにおける天敵利用の推進

J Aわかやま紀州地域本部ピーマン部会（部会長：小森 要氏）では、土着天敵タバコカスミカメを利用したコナジラミ類及びアザミウマ類の防除に取り組んでいる。農業水産振興課は、J Aの営農指導員と連携し、農業試験場の協力を得ながら技術指導を行っており、その一環として、6月30日、新規に天敵を導入した農家5戸を対象に天敵の定着状況調査を行った。

露地に植栽しているクレオメ（天敵誘引作物）に飛来したタバコカスミカメを10月下旬から11月中旬にかけて採集し、1,000頭/10a以上を目標にハウス内に放飼したところ、調査したすべてのほ場でタバコカスミカメが定着し、慣行防除には及ばないものの対象害虫の密度を低く抑えることができた。5月26日までの農薬（殺菌剤も含む）による防除回数は、6～10回で慣行防除の12回より少なかった。

調査に協力してくれた農家には、調査結果を随時通知することによって、自身のほ場の状況が把握でき、天敵の効果が実感できた様子だった。



調査結果をもとに防除に関する当面の対応を説明

VI 西牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の導入推進による産地維持】

～摘心+カットバック処理実証園の収量調査結果～

農業水産振興課では、普及指導計画の重点プロジェクトとして、うめ樹のカットバック処理等による低樹高化を図るとともに、摘心処理の導入による果実の安定生産や徒長枝の発生を極力少なくする枝梢管理技術の確立を目指している。

その一環として、ウメ「南高」の省力かつ着果安定対策として取り組んでいる摘心+カットバック処理実証園の収穫調査を6月2日、4日に上富田町岡（21年生樹）、田辺市秋津川（35年生樹、10年生樹）の実証園で実施した。

上富田町岡の実証園では、春季の摘心処理を4年間継続して実施し、青梅の収穫調査では1樹当たり約70kgの収量が得られた。前年に比べ8割程度の収量にとどまったものの、慣行樹との比較では昨年と同様、摘心処理樹は慣行樹に比べ約2倍以上の収量が得られた。

一方、田辺市秋津川の実証園では、春季の摘心処理を4年以上継続して実施し、青梅の収穫調査では、35年生樹で1樹当たり116kg、10年生樹で32kgの収量が得られた。樹齢が異なるため樹冠占有面積1㎡当り収量に換算すると、それぞれ約1.6kg、約1.4kgとなり樹齢が異なっても樹冠占有面積に応じて安定的に着果することが確認できた。

今後の取り組みとして、収穫後、枝梢管理労力の軽減に向けた夏季の摘心処理を実施し、徒長枝の発生を極力少なくする技術の確立を目指す。



上富田町岡実証園の収穫作業（左）と摘心処理樹の着果状況（右）

2. 重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の導入推進による産地維持】

～摘心+カットバック処理実証園で夏季摘心処理を実施～

農業水産振興課では、うめ「南高」の省力かつ着果安定対策として取り組んでいる摘心+カットバック処理実証園において、電動バリカン使用による夏季の摘心処理を6月17日～19日（収穫から2～3週間後）に上富田町岡（21年生樹）、田辺市上芳養（18年生樹）、田辺市下三栖（20年生樹）の3園で実施した。

春季の摘心処理により徒長枝の発生本数は慣行樹の半分程度に減少するが、さらに徒長枝の発生を極力少なくし枝梢管理作業を大幅に軽減することを目的に、収穫後、夏季の摘心処理を実施した。

一樹当たりの処理時間は、昨年とほぼ同様に8～9分を要した。また、せん除した枝梢の重量は一樹当たり2～5kgと少量であった。せん除した枝梢は、昨年度の取り組み結果から支障がないと判断し、そのまま地面に落下放置した。

今後は、樹勢の確認を行うとともに、春季+夏季の摘心処理樹と慣行樹における秋季のせん定時間やせん除した枝重量の比較調査を行い、枝梢管理労力の大幅な軽減に向けた技術の確立を目指す。



実証園の夏季摘心作業風景
(田辺市上芳養)



実証園の夏季摘心でせん除した枝梢
(田辺市下三栖)

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 県産農産物(うめ)の提供に係る出前授業を実施

和歌山県では地産地消の取り組みとして平成 24 年度から県内小学校・特別支援学校に対し主要農産物を教材として提供しており、出前授業を行うことで、「農業に対する理解を深め、郷土愛や食に対する感謝」を育成することを目的としている。

6 月 10 日、農業水産振興課は北山村立北山小学校への県産うめの提供に係る出前授業を実施した。

3・4 年生、計 6 名に対して当課の面矢技師が「うめの一年間の流れ」を紙芝居形式で説明し、その中で、近年うめの降雹被害が発生し、栽培が大変であることにも触れた。

その後、児童は教材のうめをもとに「うめジュース作り」を体験した。児童からは「ジュースの完成が楽しみ」といった感想があがった。



授業風景



実習風景

2. くろしおピーマングループが栽培出荷検討会を実施

6 月 26 日にくろしおピーマングループ（代表：瀧本ふさゑ氏）が高津気会館（那智勝浦町）で「くろしおピーマン、シシトウ栽培関係検討会」を実施し、生産者 4 名、市場関係者 2 名、JAわかやま職員 2 名、当課 4 名の計 12 名が参加した。

検討会では、主にピーマンの出荷情報や栽培状況、病虫害の発生状況、生産者から果実の症状などの確認を行った。

その後、農薬をはじめとした病虫害の対策手法について検討がなされた。



栽培検討会（那智勝浦町）

3. クビアカツヤカミキリ発生状況調査を実施

特定外来生物であるクビアカツヤカミキリによる、もも、うめ、さくらなどバラ科植物への被害が県内の紀北及び紀中地域で確認されている。当地域への侵入、被害の拡大を防ぐためには、早期発見と早期防除が重要である。

6月4日および16日、農業水産振興課はクビアカツヤカミキリの発生状況を調査し、調査対象20地点のうち12地点のうめと公園のさくら計353本において、株元やその周辺に成虫やフラスが無いかを目視により確認した。

今回、発生は確認されなかったが、チラシの配布等による生産者や関係機関への注意喚起を継続する必要がある。残り8地点については、7月以降に調査を行う。



調査の様子（那智勝浦町）

4. 新宮周辺地場産青果物対策協議会が総会及び現地研修会を開催

6月29日、新宮周辺地場産青果物対策協議会（会長：小田三郎氏）は、総会及び現地研修会を開催した。くろしお熊野やさいグループ（生産者）、市場関係者、JAわかやま職員、市町職員、農業水産振興課併せて12名の出席があった。

総会では、令和7年度事業報告、収支決算、令和8年度事業計画について審議され、すべて承認された。また、新宮市役所の小林氏から今年度に市場が主催する予定の品評会に関する質問があった。

現地研修会として、ナス、オクラ、スイートコーンの栽培ほ場に移動し、当課の面矢技師から、地域の栽培の現状や概要について説明した。



総会の様子（新宮広域圏公設地方卸売市場）



現地研修会の様子（新宮市）

VIII 経営支援課

1. 近畿野菜技術研究会第120回研究会を開催

近畿野菜技術研究会は、近畿府県の普及指導員等で組織されており、野菜園芸に関する研修と情報交換を行い、普及事業の発展を図ることを目的として活動している。

今年度の開催地は和歌山県であり、当課は6月12日に「施設園芸野菜における総合防除の取組」をテーマとして、第120回研究会を開催し、近畿府県の普及職員等106名が出席した。

午前中は土着天敵タバコカスミカメによりコナジラミ類、アザミウマ類の防除を行うピーマンハウス3か所にて現地研修会を行った。JAわかやま紀州地域本部の湯川営農指導員、日高振興局の伊藤普及指導員、村中技師により、各ハウスの取組内容が紹介され、参加者からタバコカスミカメの定着率やクレオメの定植時期等について多くの質問があがった。

午後は暖地園芸センターにて3府県から事例発表が行われた。和歌山県は、伊藤普及指導員が「土着天敵タバコカスミカメによるコナジラミ類、アザミウマ類防除を軸とした総合防除の実践」と題し、現地の取組状況を報告した。

近年、環境負荷軽減の取組や持続可能な農業が推進されていることもあり、今回の参加者数や活発に行われた質疑等から、「総合防除」への関心の高さが伺えた。



ピーマンハウスにて現地研修会



各府県から事例発表

2. 普及指導員資格試験に向けた勉強会を実施

6月23日、当課は令和8年度普及指導員資格試験に向け、今年度受験者や次年度以降の受験予定者に対して勉強会を実施し、14名が参加した。

まず、当課の林農業革新支援センター長から試験の概要や普及指導の理念・役割について講義を行った後、田中農業革新支援専門員が試験問題の傾向と対策について説明した。

続いて前年度の試験合格者から、勉強法や解答例、受験に当たっての心構え等について紹介した後、論文記述問題について実際に演習を行った。

普段論文を書く機会が少ないため、参加者らは試行錯誤しながら取り組んでいた。

次回は今年度受験者を対象に7月に模擬試験を行う予定である。



演習問題に取り組む参加者

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489